

西東京市告示第111号

平成29年西東京市告示第71号の全部改正について

令和3年6月21日

西東京市長 池澤隆史

下記のとおり平成29年西東京市告示第71号の全部を改正する。

記

西東京市建築基準法施行細則（平成29年西東京市規則第7号）第15条第1項及び第2項並びに第21条第1項第1号及び第2号の規定により、建築工事施工計画報告書又は完了検査申請書若しくは中間検査申請書に添付する書類をそれぞれ次のように定める。

コンクリート使用材料及び施工													
基礎の種類		<input type="checkbox"/> 直接基礎 { <input type="checkbox"/> ベタ基礎 <input type="checkbox"/> 布基礎 <input type="checkbox"/> 独立基礎 } <input type="checkbox"/> 杭基礎 <input type="checkbox"/> 打込み杭()、 <input type="checkbox"/> セメントミルク工法による埋込み杭、 <input type="checkbox"/> オールケーシング工法、 <input type="checkbox"/> アースドリル工法、 <input type="checkbox"/> リバーササーキュレーション工法、 <input type="checkbox"/> 拡底杭工法()、 <input type="checkbox"/> その他(工法)											
コンクリート 強度 (N/mm ²)	使用工法				基準	<input type="checkbox"/> JASS5 (年版) <input type="checkbox"/> その他 ()							
	使用部位	杭	基礎		階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階		
	設計基準強度												
	使用工法							軽量()種	モルタル	グラウト			
	使用部位	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階				
	設計基準強度												
塩害対策の有無		<input type="checkbox"/> 有(対策方法)			<input type="checkbox"/> 無		アルカリシリカ反応抑制対策						
設計かぶ り厚さ (cm)	部位	柱		梁		床		耐力壁		非耐力壁		基礎・擁壁	
		屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内		
	土に接しない部分	3+	3+	3+	3+	2+	2+	3+	3+	2+	2+		
土に接する部分	4+		4+		4+		4+		4+		6+		
検査計画	検査担当者(工事施工者)氏名						工事監理者 又は係員氏名		立会検査 の有無		常駐 非常駐		
	検査項目	打込前	<input type="checkbox"/> 試練 <input type="checkbox"/> 散水 <input type="checkbox"/> 配筋 <input type="checkbox"/> かぶり厚さ							有・無		常・非	
		打込中	<input type="checkbox"/> テストピース採取 <input type="checkbox"/> 打込速度・順序 <input type="checkbox"/> 締固め							有・無		常・非	
		打込後	<input type="checkbox"/> 養生方法 <input type="checkbox"/> 養生温度 <input type="checkbox"/> 打込欠陥							有・無		常・非	
	エア・スランプ試験等の代行業者名												
	供試体の養生場所												
	構造体コンクリート試験機関名		Fc36N/mm ² 以下の場合				都登録		第		号		
打ち込み欠陥部の検査方法等		Fc36N/mm ² 超の場合				都登録		第		号			
鉄筋使用材料及び施工													
使用鉄筋	種別	SD295A		SD345		SD390		SD490		その他()			
	使用径	D ~D		D ~D		D ~D		D ~D		D ~			
鉄筋確認項目	施工	継手種類		圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)			
		使用箇所											
		継手工法名(溶接材料)											
		継手施工会社(優良圧接業者)											
		S A 級 継 手				有・無							
		A 級 継 手		有・無		有・無		有・無					
				A 級		その他		S A, A級		その他			
	技量確認・施工前試験												
	冷間直角カッターの使用												
	試験・検査	外観検査(%)											
引張試験のみ(箇所/ロット)													
超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)													
引張試験併用													
引張試験機関名						都登録		第		号			
非破壊検査機関名						検査者		資格		都登録 第 号			
梁貫通孔補強	補強方法		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 在来工法 <input type="checkbox"/> 既製品()								<input type="checkbox"/> 無		
	構造検討		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無										
	使用部位												

コンクリートの設計及び仕様による条件								
番号	a 打込箇所	※1 コンクリートの種類 1	設計基準強度 (N/mm^2)	強度管理材齢 (日)	生工 コ場 ン名	セメントの種類	単位セメント 量(kg/m^3)	スランプ スランプフロー(cm)
			品質基準強度 (N/mm^2)	養生方法		骨材の産地	水セメント比 (%)	※6 混和剤の種類
枝番	c 適用期間	※2 コンクリートの種類 2	呼び強度 (調合管理強度)	判定基準強度 (N/mm^2)※3	※4	コンクリート 温度($^{\circ}C$)※5	空 気 量 (%)	混 和 剤

(注意) ※1 から※6 までについては、その4を参照のこと。

コンクリート試験計画及び鉄筋試験計画一覧

番号 枝番	打込箇所	打込予定年月日 (年 月 日)	コンクリート圧縮試験回数 ※7	※4 生コン工場名	番号	鉄筋接合箇所 (継手種類)	継手予定年月日 (年 月 日)	鉄筋引張試験回数 ※9	超音波探傷・測定検査 (箇所/ロット又は%)
		打込予定数量 (m³)	うち防災センター 試験回数	※8 圧送計画	枝番		継手予定数量	うち防災センター 試験回数	うち引張試験併用 ロット(箇所/ロット)
合計		打込予定数量		コンクリート圧縮試験回数		合計	継手予定数量		超音波探傷・測定検査
				うち防災センター試験回数					うち引張試験併用
供試体試験 1回の試験のうち (告示第1102号)	28日 日 日	本 本 本	支柱早期除去用 部位(梁下・床下)			日本	PS導入用	日本	

(注意) 1 防災センターとは、(公財)東京都防災・建築まちづくりセンターのことをいう。
 2 ※4及び※7から※9までについては、その4を参照のこと。

レディーミクストコンクリート工場一覧

A	工場名称			B	工場名称		
	JIS 認証番号				JIS 認証番号		
	認証品目		運搬時間		認証品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		
C	工場名称			D	工場名称		
	JIS 認証番号				JIS 認証番号		
	認証品目		運搬時間		認証品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		
E	工場名称			F	工場名称		
	JIS 認証番号				JIS 認証番号		
	認証品目		運搬時間		認証品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		
G	工場名称			H	工場名称		
	JIS 認証番号				JIS 認証番号		
	認証品目		運搬時間		認証品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		

コンクリート圧送ポンプ一覧

a	型番				b	型番			
	性能	cm	m ³ /h	N/mm ²		性能	cm	m ³ /h	N/mm ²
c	型番				d	型番			
	性能	cm	m ³ /h	N/mm ²		性能	cm	m ³ /h	N/mm ²

- (注意) 1 コンクリートの使用骨材による種類を記入する。
 2 コンクリートの使用材料・施工条件・要求性能などによる種類(通常、寒中、暑中、軽量、流動化、高流動、高強度、マスコン、プレストレスト、水中、水密)を記入する。
 3 高強度コンクリートの場合は、Fc+mSnのそれぞれの項の値を()内に別途記入する。
 4 生コン工場はその4による記号で表示する。
 5 高強度・マスコン・暑中・寒中コンクリートについては、必ず記入する。
 6 混和剤の商品名及び種類(AE 剤、減水剤、AE 減水剤、標準形、促進形、遅延形)などを記入する。AE 減水剤等の化学混和剤以外の混和剤を使用する場合は、塩化物量が分かるものを添付する。
 (混和剤の種類によっては、塩化物試験に有害イオンとして作用するものがあるので、注意すること。)
 7 コンクリートの圧縮試験回数は、打込工区ごと、打込日ごと、かつ150m³(高強度は JASS-2003, 2009 及び 2015 は 300 m³に1回で適当な間隔をおいた3台のトラックアジテータから1台につき3個ずつ計9個以上)又はその端数ごとに1回以上とする。
 8 圧送計画は、その4による記号で表示する。
 9 鉄筋の引張試験回数は、200 箇所又はその端数ごとに1回以上とする。

鉄骨工事施工計画報告書

この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

年 月 日

殿
代表となる工事監理者 住所 _____ 電話 _____
会社名 _____ 級建築士事務所 登録第 _____ 号
氏名 _____ 級建築士 登録第 _____ 号

工事施工者 住所 _____ 電話 _____
会社名 _____ 建設業の許可 大臣・知事()第 _____ 号
氏名 _____
(法人にあつては、その事務所の所在地・名称・代表者氏名)

品質窓口責任者氏名 _____ 電話 _____

記

(工場名： _____ 工場)

建 築 物	工事現場	名称			建築工事施工 計画報告書	年 月 日 第 号		
		所在地	区 市			電話		
		構造設計者	氏名		所属会社	電話		
		溶接技術監督員	氏名		所属会社	電話		
		品質管理責任者	氏名		所属会社	電話		
		構造種別	S造 RC造 SRC造 ()造		架構形式	ラーメン プレース ()		
		軒の高さ	m 最大張り間		m	延べ面積	m ²	
		確認済証交付機関						
		確認・計画通知、年月日及び番号		年 月 日		第 号		
		計画変更年月日及び番号		年 月 日		第 号(変更内容は別紙)		
鉄 骨 工 事 概 要	溶接工事 施工者	鉄骨加工工場の名称 所在地		工場 代表者氏名 電話番号				
		国土交通大臣認定		認定年月日 有効期限	年 月 日 年 月 日	認定番号 作業対象建築物		
	接合部の概要	形主要部材	柱	柱接合方式 の	ブラケットタイプ		ノンブラケットタイプ	
			梁		1 通しダイアフラム 2 梁通し 3 柱通し(内・外ダイアフラム)	1 通しダイアフラム() 2 柱通し(内・外ダイアフラム) その他(大臣認定接合等)		
		接合部材	柱—梁	柱—柱	梁—梁	—		
		鋼材接合	()—() ()—()	()—() ()—()	()—() ()—()	()—() ()—()		
		溶接接合	工場・工事現場()	工場・工事現場()	工場・工事現場()	工場・工事現場()		
	高力ボルト接合	摩擦・引張		摩擦・引張		摩擦・引張		
	使用鋼材	鋼材種別 (最大板厚) (mm)	柱	梁	その他		受付欄	
			SS () SM () SN () STKR () その他 ()()	SS () SM () SN () その他 ()()	ダイアフラム () ベースプレート ()			

(注意) 代表となる工事監理者及び工事施工者は、本報告書の記載内容が確認済証、設計図書等と整合しているか十分確認して記入すること。

工場溶接（突合せ部）				工事現場溶接（突合せ部）						
1	アーク手溶接(AC/DC)	1	アーク手溶接(AC/DC)							
2	ガスシールドアーク半自動溶接(AC/DC)	2	ガスシールドアーク半自動溶接(AC/DC)							
3	スタッド溶接	3	スタッド溶接							
4	セルフシールドアーク半自動溶接(AC/DC)	4	セルフシールドアーク半自動溶接(AC/DC)							
5	サブマージアーク半自動溶接	5	サブマージアーク半自動溶接							
6	消耗ノズル式エレクトロスラグ溶接	6	消耗ノズル式エレクトロスラグ溶接							
7	狭開先溶接	7	狭開先溶接							
8	その他()	8	その他()							
鋼材の切断の方法										
開先の形状		別添図 のとおり		開先の仕上方法						
エンドタブの種類と 主な使用部位		鋼製タブ		ブラックスタブ						
裏はつりの方法										
歪取りの方法										
ジグの使用										
回転ジグ 組 固定ジグ 組										
仮組立実施										
無・有()										
種類	使用部位	鋼種	最大板厚	種別	製造会社	溶接棒等	作業姿勢	溶接技能者資格		
工場溶接	突合せ		mm				F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名	
							F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名	
							F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名	
							F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名	
	すみ肉							F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名
								F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名
溶接管理責任者		所属			氏名		資格			
溶接検査責任者		所属			氏名		資格			
検査機関名		都登録 第 号			CIW 番号		受入れ検査率			
検査員		氏名			資格		VT			
検査内容							UT			
工事現場溶接	突合せ						F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名	
							F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名	
							F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名	
							F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名	
	すみ肉							F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名
								F V H O	SA SN 1 2 3 F V H O P	名
溶接管理技術者		所属			氏名		資格			
検査機関名		都登録 第 号			CIW 番号		受入れ検査率			
検査員		氏名			資格		VT			
検査内容							UT			

溶接工事	溶接部における重点管理内容	管 理 項 目	管 理 内 容	要領書ページ				
		1	ダイアフラムとフランジのずれ 柱と梁の仕口					
		2	突合せ継手の食違い					
		3	通しダイアフラムと梁フランジ					
		4	アンダーカット					
		5	われ					
		6	その他溶接部の外観・形状					
		7	入熱・パス間温度管理					
		1)測定方法						
		2)溶接手順						
8	不具合処置の方法 (食違い、仕口のずれなど)							
高力ボルト接合工事	高力ボルト接合工事施工者名称：							
	施工管理責任者	所属	氏名	資格				
	高力ボルトのタイプ	トルシア形高力ボルト(有 無)		高力六角ボルト(有 無)				
				<input type="checkbox"/> 溶融亜鉛めっき高力ボルト <input type="checkbox"/> その他 ()				
	高力ボルト製造工場	名称		名称				
	ボルトセット	記号	ボルト	S T ナット F 座 F	ボルト	F T ナット F 座 F	ボルト	F T ナット F 座 F
		材質						
	接 合 方 法	<input type="checkbox"/> 摩擦接合 <input type="checkbox"/> 引張接合		<input type="checkbox"/> 摩擦接合 <input type="checkbox"/> 引張接合	<input type="checkbox"/> 摩擦接合 <input type="checkbox"/> 引張接合			
	摩 擦 係 数	0.45()		0.45()	0.40()			
	摩 擦 面 の 表 面 処 理	母材 () スプライスPL () フィラーPL ()		母材 () スプライスPL () フィラーPL ()	母材 () スプライスPL () フィラーPL ()			
	ボルトの締付方法	<input type="checkbox"/> トルクコントロール法		<input type="checkbox"/> トルクコントロール法 <input type="checkbox"/> ナット回転法	<input type="checkbox"/> ナット回転法			
	締 付 機 器	一次締： 二次締：		一次締： 二次締：	一次締： 二次締：			
	すべり係数試験 すべり耐力試験	<input type="checkbox"/> 有 1 試験体： <input type="checkbox"/> 標準試験片 2 摩擦面： <input type="checkbox"/> 自然放置 () <input type="checkbox"/> 無		<input type="checkbox"/> 工事現場継手に準ずる <input type="checkbox"/> 化学処理()	<input type="checkbox"/> 工事現場継手と同一 <input type="checkbox"/> ショットブラスト			
軸 力 導 入 試 験	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無							

		自主管理事項				検査事項				自主管理事項		検査事項					
		鉄骨加工業者	検査機関	工事施工者	工事監理者	鉄骨加工業者	検査機関	工事施工者	工事監理者			鉄骨加工業者	検査機関	工事施工者	工事監理者		
		試験・検査等の項目				試験・検査等の項目						試験・検査等の項目					
試験・検査の計画	製作前の承認	1 鉄骨加工工場の調査・決定								工事現場	承認	1 溶接技能者の確認					
		2 製作要領書の承認										2 技量確認試験					
		3 工作図の承認										3 施工試験					
		4 溶接技能者の承認										ボルト工事	1 建方検査				
		5 技量確認試験									2 仮ボルト本締						
		6 現寸検査									3 摩擦接合面検査						
		7 材料検査									4 食違い、肌すき検査						
		8 鋼材材質									5 現場軸力検査						
		9 素材試験									6 スタッロボルト検査						
		10 溶接性試験									7 高力ボルト本締 (一次・マーキング・二次)						
									8 共廻、締忘れ検査								
	ボルト工事	1 ボルト製品検査								溶接工事	1 溶接条件の承認						
		2 すべり検査							2 溶接順序								
3 施工試験								3 天候条件と対策									
製作	溶接	1 スタッロボルト製品検査							4 溶接管理体制								
		2 施工試験							5 予熱管理								
	1 溶接材料の乾燥状態							6 入熱・パス間温度管理 ※									
	2 開先形状							7 開先形状、ルート間隔									
	3 ルート間隔							8 食違い									
	4 食違いすきま							9 補正処置方法									
	5 裏あて、タブ							10 外観・表面欠陥検査									
6 予熱温度							11 非破壊検査 ※										
7 組立溶接							12 不具合処置方法										
工事	接								その他								
		1 溶接順序															
	2 入熱・パス間温度管理 ※																
	3 電流・電圧																
	4 溶接速度																
	5 スラッグ清掃																
6 裏はつり																	
製品検査	検査	1 溶接部の寸法							検査基準								
		2 外観															
		3 表面欠陥検査															
		4 内部欠陥検査															
		5 不具合処置方法															
		6 補修後検査															
製品検査	添付資料	1 外観・表面欠陥検査															
		2 非破壊検査															
		3 内質検査 ※															

自主検査(○) = 鉄骨加工工場が、社内検査を実施する項目について○印をつける。
承認(○) = 発注者側が、検査を実施する項目のうち、鉄骨加工工場の自主的な検査に任せ、事後報告を一括して行えば良いとした項目について○印をつける。
立会い(□) = 発注者側が、検査を実施する項目のうち、鉄骨加工工場の自主的な検査に任せ、事後報告を一括して行えば良いとした上で、確認のために一部サンプルの立会い検査を行う項目について□印をつける。
受入れ検査(△) = 発注者側が、検査を実施する項目のうち、鉄骨加工工場の自主的な検査に任せず、自ら又は第三者機関に代行させて受入れ検査を実施する項目について△印をつける。

※ 高さが45mを超える建築物で溶接する鋼材の板厚が25mm以上の部分又は高さが45m以下の建築物で溶接する鋼材の板厚が40mmを超える部分において、鉄骨造等の工事に関する東京都取扱要綱により内質検査を必要とする場合は、受入検査として実施すること。

鉄筋継手の試験検査結果(検査ロットごと)報告(延べ面積が500㎡を超える建築物)

ロット NO.	鉄筋継手部位	鉄筋継手の工法		使用鉄筋の種別		試験・検査機関名 (都登録番号)		破断位置(本数を記入)		降伏点(N/mm ²)					検査ロットの	
		継手施工業者名		継手の試験・検査方法		試験・検査年月日		合 否(本数を記入)		引張強さ(N/mm ²)					合 否	
		1	2	3	4	5										
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱 階梁			SD	D			母()継()								合・否
					引張・非破壊			合()否()								
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱 階梁			SD	D			母()継()								合・否
					引張・非破壊			合()否()								
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱 階梁			SD	D			母()継()								合・否
					引張・非破壊			合()否()								
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱 階梁			SD	D			母()継()								合・否
					引張・非破壊			合()否()								
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱 階梁			SD	D			母()継()								合・否
					引張・非破壊			合()否()								
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱 階梁			SD	D			母()継()								合・否
					引張・非破壊			合()否()								
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱 階梁			SD	D			母()継()								合・否
					引張・非破壊			合()否()								
試験・検査確認欄 (合計)		継手箇所数(箇所)		試験回数(回)		注2) 超音波探傷・測定検査 (箇所/ロット又は%)		変更理由								
		計画	実施	計画	実施	計画	実施			計画	実施					

(注意) 1 不合格による再試験の場合は次行(上段)に「再試験」と記入すること。
2 防災センターとは、(公財)東京都防災・建築まちづくりセンターのことをいう。

コンクリートの試験検査結果(検査ロットごと)報告(延べ面積が500㎡を超える建築物)

ロット NO.	打設箇所	打設年月日		コンクリートの種類	塩化物量(kg/m³)	スランブ(cm)	コンクリート温度(℃)	設計基準強度(N/mm²)	呼び強度(調合管理強度)	合否判定	判定基準強度(N/mm²)		合否判定	材齢(日)	圧縮強度③(N/mm²)	試験機関名(都登録番号)
	打込容量(m³)	天候	気温(℃)	セメントの種類	測定器	空気量(%)	供試体の養生方法	品質基準強度(N/mm²)	圧縮強度①(N/mm²)		材齢(日)	圧縮強度②(N/mm²)		材齢(日)	圧縮強度④(N/mm²)	
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2 N・H()												
試験確認欄 (合計)	打込容積(m³)		試験回数(回)		防災センター試験回数(回)		変更理由									
	計画	実施	計画	実施	計画	実施										

(注意) 1 圧縮強度

- ① 受入検査(標準養生試験体)=使用するコンクリートの検査
- ② 構造体コンクリートの検査(現場水中養生、現場封かん養生、コア又は標準養生試験体)
- ③ 支柱除去時期決定用試験体(現場水中養生試験体)
- ④ プレストレス導入時期決定用試験体(現場水中養生試験体)

2 防災センターとは、(公財)東京都防災・建築まちづくりセンターのことをいう。

鉄筋及びコンクリート工事における施工管理状況報告 (延べ面積が 500 m ² を超える建築物)													
工事監理者の検査等における主な指示・指摘事項と是正方法													
試験・検査に伴う業務を行った者(要綱第2条2項)	構造体コンクリート(工事施工者以外の場合は業者名を記入)			鉄筋の継手(同左)									
	コンクリートの採取	エア・スランプ試験供試体製作	試験機関への運搬	供試体の採取	試験機関への運搬								
	工事施工者	工事施工者	工事施工者	工事施工者	工事施工者								
施工計画に基づく結果確認													
コンクリート工事	強度確認												
	かぶり厚さ管理												
	養生方法及び打込欠陥部検査												
鉄筋工事	施工	継手種類	圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)				
		使用箇所											
		継手工法名(溶接材料)	/										
		継手施工会社(優良圧接業者)											
		S A 級 継 手	有 ・ 無		有 ・ 無		有 ・ 無		有 ・ 無				
		A 級 継 手	有 ・ 無		有 ・ 無		有 ・ 無		有 ・ 無				
	試験・検査	A 級		その他		S A, A 級		その他		A 級		その他	
		技量確認・施工前試験											
		冷間直角カッターの使用											
		外観検査(%)											
		引張試験のみ(箇所/ロット)		/									
		超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)		/									
		引張試験併用		/									
		引張試験機関名						都登録		第		号	
		非破壊検査機関名						都登録		第		号	
外観検査実施者		工事監理者・工事施工者/検査機関				検査者		資格		都登録 第 号			
不 具 合 部 の 処 置 方 法													
コンクリート工事													
鉄筋工事													
その他													

基礎配筋等の確認項目報告(延べ面積が 500m²を超える建築物)

検査対象部分(○で囲む。)		基礎配筋	先行床配筋					
確認項目	確認内容 欄中の※は法令規定事項である重要確認項目をさす。					工事施工者	工事監理者	備考
						注 確認方法	注 確認方法	
① 全体	共通	※ 令 3 章 8 節	a) 柱、はり、壁、スラブの位置の確認					
		※ 令 79	b) かぶり厚さの確保					
		※ 法 37	c) 鉄筋の材質(JIS 規格)の確認					
		※ 法 37	d) コンクリートの材質(JIS 規格)の確認					
② 地盤・基礎	支持地盤 (試験ぐい(試)と本ぐい(本)それぞれについて、記載する。)	※ 令 38 令 93 告 1113	a) 支持地盤の位置、種類、地耐力等の確認					
			b) ぐいの支持地盤の位置、種類の確認(載荷試験を含む)	試本	試本			
	ぐい等の種類、配筋等 (試験ぐい(試)と本ぐい(本)それぞれについて、記載する。)	※ 令 38 令 73 令 77 の 2 令 78	c) 場所打ちぐいの材料、工法、長さ、径、位置、ぐい頭処理、継手、主筋径・数、かぶり、偏心による補強等の確認	試本	試本			
			d) PC ぐいの材料、工法、長さ、径、位置、ぐい頭処理、継手、偏心による補強等の確認	試本	試本			
			e) 鋼管ぐいの材料、工法、長さ、径、位置、ぐい頭処理、継手、偏心による補強等の確認	試本	試本			
			f) 連続地中壁の材料、工法、長さ、径、位置、接合、補強鋼材、偏心による補強等の確認					
			g) 評価工法等のぐいの材料、工法、長さ、径、位置、ぐい頭処理、継手、主筋径・数、かぶり、偏心による補強等の確認	試本	試本			
			h) ぐい施工中の水の状況	試本	試本			
			i) 偏心の状況(施工誤差許容値内、補強の要否、変更手続否・要・済)					
			j) 地盤改良の材料、工法、径、長さ、位置、耐力等の確認					
			k) 地盤アンカーの方向、材料、工法、耐力等の確認					
			基礎の種類、配筋	※ 令 38 令 73 令 77 の 2 令 78	l) ベタ基礎の種類、部材寸法、主筋の径、本数、位置、ピッチ、定着等の確認(参考:配筋指針「基礎」等)			
	m) 連続基礎の種類、部材寸法、主筋の径、本数、位置、ピッチ、定着等の確認(参考:配筋指針「基礎」等)							
	n) 独立基礎の種類、部材寸法、主筋の径、本数、位置、ピッチ、定着等の確認(参考:配筋指針「基礎」等)							
地中ばり	※ 令 38 令 73 令 78	o) 地中ばりの断面寸法、主筋径、本数、位置、定着方法、継手(位置、長さ)、あばら筋の位置、径、間隔、形状、偏心による補強、貫通孔の位置及び補強(評定品の仕様確認)等の確認(参考:配筋指針「基礎」等)						
マスコンクリート	※ 令 74 令 75	p) 打設計画、コンクリートの温度、気温、養生、コンクリートの状態の確認、補修等(参考:JASS5「鉄筋間隔・あきの最小寸法」等)						
柱脚	※ 令 66 告 1456	q) 露出型柱脚 アンカーボルトの配置、定着長さ、形状、断面積、ナットの戻り止め、ベースプレートの板厚、孔径、縁端距離等						
		r) 根巻き型 根巻き部分の高さ、RC 柱主筋の本数、形状、帯筋						
		s) 埋込み型 埋込み部分の深さ、隅柱等の補強筋、鉄骨のかぶり厚さ						
③ 柱	一般階主筋	※ 令 77	a) 柱寸法、主筋の径、本数、配置(方向)、偏心による補強等の確認(参考:配筋指針「基礎ばり」等)					
		※ 令 77	b) 2 段筋の位置(間隔)の確認(参考:JASS5「鉄筋間隔・あきの最小寸法」等)					
	最下階主筋	※ 令 73	c) 最下階の主筋の基礎に対する定着確認(参考:配筋指針「柱脚(最下階)の配筋」等)					
	定着・継手	※ 令 73	d) 主筋の継手位置及び長さの確認(参考:JASS5「柱筋の継手の位置及び定着」等)					

		※	令 73	e) 打増しの大きさによる配筋補強確認(参考:配筋指針「柱・梁の打ち増しコンクリート補強筋」等)				
	帯筋	※	令 77	f) 鉄筋径、間隔、本数(副帯筋共)及び形状の確認(参考:配筋指針「帯筋、副帯筋の一般形状」等)				
		※	令 77	g) 主筋絞り部、折曲げ部の帯筋補強の確認(参考:配筋指針「柱筋の絞り位置と絞り方」等)				
		※	令 77	h) 仕口部分の帯筋の配置確認(参考:配筋指針「帯筋の配筋間隔について」等)				
		※	令 77	i) 第1帯筋と柱頭の拘束帯筋の位置確認(参考:配筋指針「帯筋の配筋間隔について」等)				
		※	令 73	j) 帯筋のフック又は溶接の形状、結束の確認(参考:配筋指針「帯筋の一般形状」等)				
④ はり	はり主筋	※	令 78	a) はり断面寸法、はり主筋の径、本数及び位置の確認				
		※	令 78	b) 中吊り筋の間隔の確保、長さ確認(参考:JASS5「鉄筋の間隔・あきの最小寸法」及び配筋指針「はり端部・中央部の配筋」等)				
	定着・継手	※	令 73 令 78	c) はり筋の定着長さ、位置確認(参考:JASS5「はり筋の定着」、RC規準「仕口への定着」等)				
		※	令 73 令 78	d) 重ね継手の位置と長さ確認(参考:JASS5「梁筋の継手の位置」「鉄筋の重ね継手の長さ」等)				
		※	令 73 令 78	e) はり筋出隅部の鉄筋端部のフック確認				
	打増し、貫通孔補強	※	令 3章 8節	f) 打増しの補強方法が適切か、貫通孔の位置及び補強の確認(評定品の仕様確認)(参考:配筋指針「柱・梁の打ち増しコンクリート補強筋」「はりの貫通孔補強」等)				
	あばら筋	※	令 78	g) あばら筋の径、本数(副あばら筋共)とピッチの確認				
		※	令 73	h) あばら筋のフック形状、結束の確認(参考:配筋指針「あばら筋の形状」等)				
	片持ちばり	※	令 73 令 78	i) 片持ちばり主筋の定着、あばら筋位置確認(参考:配筋指針「片持ちばりの配筋」等)				
小ばり	※	令 73	j) 小ばり配筋の位置と定着確認(参考:配筋指針「小ばりの端部・中央部の配筋」「定着」等)					
⑤ スラブ	スラブ筋	※	令 77の2	a) スラブ厚さの支持条件、寸法、鉄筋のピッチと径の確認				
		※	令 77の2	b) 主筋配置(短辺・長辺とベント配筋)の確認(参考:配筋指針「床スラブ」等)				
	定着、重ね継手	※	令 73 令 77の2	c) 定着と長さ与方法(はり定着、隣接スラブ、段差スラブ定着)				
		※	令 73 令 77の2	d) 片持スラブの定着と上端筋位置確保(先端壁有無)(参考:配筋指針「片持スラブ」等)				
		※	令 73 令 77の2	e) 継手の位置と長さ(参考:配筋指針「床スラブ継手位置」等)				
	補強筋等			f) 床スラブの出入隅部の補強(参考:配筋指針「床スラブに関するその他の事項」等)				
		※	令 3章 8節	g) 開口部補強配筋確認(参考:RC規準等)				
※		令 3章 8節	h) 階段部配筋と補強筋確認(参考:配筋指針「階段」等)					
⑥ 壁	壁筋	※	令 78の2	a) 壁厚、鉄筋の径、ピッチ、位置(土圧壁主筋・階段受け筋)の確認				
	定着・重ね継手	※	令 73 令 78の2	b) 定着確認(はり、柱、スラブ、壁定着)(参考:JASS5及び配筋指針「壁筋の定着」等)				
		※	令 73 令 78の2	c) 重ね継手の位置と長さの確認(参考:JASS5及び配筋指針「壁筋の継手の位置」等)				
	補強筋等	※	令 78の2	d) 開口補強配筋確認(参考:配筋指針「壁開口補強」等)				
		※	令 3章 8節	e) スリット(完全、部分)の位置、形状及び配筋確認(参考:構造規定「スリットの配置及び詳細」等)				
⑦ その他	設備配管等			a) 設備配管(CD管等)の配置確認				
	ガス圧接継手	※	令 73 告 1463	b) 圧接部の長さ及び膨らみの直径、圧接面のずれ、鉄筋中心軸の偏心量の確認				
		※	令 73	c) 圧接部の検査(引張試験、超音波探傷試験等)の検査箇所、検査率、合格率等の確認(参考:JASS5「ガス圧接継手」等)				
	特殊鉄筋継手			d) 認定、評定工法の仕様及び継手性能の確認				
		※	告 1463	e) 認定、評定品以外の場合のモルタル、グラウト材又はトルク確認				

型枠及び既存打設部分状況確認	※	令 37 令 79	f) 型枠及び支柱の締付け、清掃状況確認(参考: JASS5「型枠の検査」等)			
	※	令 37 令 79	g) ジャンカ処理、型枠等木片撤去補修確認(参考: JASS5「不具合とその修理方法の例」等)			
	※	令 3章 8節	h) 基礎、柱、はり、床板、壁の躯体寸法の確認			
	※	令 76	i) 型枠支柱存置期間の確認			
	※	令 75 令 76	j) コンクリート打設後の養生(参考: JASS5「養生」等)			
	※	令 72 令 74	k) コンクリートの調合及び圧縮強度の確認(参考: JASS5「養生」等)			
EXP. J の確認	※	令 36 の 4	l) 位置及び間隔の確認			
PCa の品質・強度確認等	※	令 3章 6節	m) コンクリートの調合及び圧縮強度の確認(参考: JASS5等) n) 鉄筋の配筋確認 o) かぶり厚さ等の確認(告示 1372 号) p) 寸法精度の確認 q) 接合及び緊結の確認等 r) 製品検査結果(寸法精度、打ち込み欠陥等) s) 建方後の部材についての構造上支障のあるひび割れ等の欠陥の有無			
プレストレストコンクリートの定着及び材料等の確認	※	令 80 の 2 等	t) プレストレストコンクリートの定着方法の確認、圧着面のモルタル強度等(告示 1320 号) u) プレストレストコンクリートの緊張材料強度の確認(告示 1320 号) v) プレストレスト導入時の PC 強度の確認 w) プレストレスト導入張力の確認			

(注意) 確認方法

A: 工事現場で目視確認したもの

B: 工事現場で検査機器を用いて計測検査したもの

C: 報告書により確認したもの

D: 工場等で検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの

E: 第三者機関等が検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの

F: 工事監理者 (構造担当: 会社名 氏名) が直接確認したもの

工事監理者及び工事施工者が A から F までの確認方法を参考に記入する。また、配筋工事等の重要項目については、工事監理組織図に記載されている構造担当者が直接確認したものは、「+F」(記入例 A+F、B+F、C+F) と記入する。

(日本産業規格 A 列 4 番)

鉄筋コンクリート造確認項目報告（延べ面積が500㎡を超える建築物）

確認項目	確認内容 欄中の※は法令規定事項である重要確認項目をさす。		工事施工者	工事監理者	備考
			注 確認方法	注 確認方法	
① 全体	共通	※ 令3章8節 a) 柱、はり、壁、スラブの位置の確認			
		※ 令79 b) かぶり厚さの確保			
		※ 法37 c) 鉄筋の材質(JIS規格)の確認			
		※ 法37 d) コンクリートの材質(JIS規格)の確認			
② 地盤・基礎	支持地盤 (試験ぐいと本ぐいそれぞれについて、記載する。)	※ 令38 令93 告1113 a) 支持地盤の位置、種類、地耐力等の確認			
		※ 令38 令73 令77の2 令78 b) 基礎の種類、くいの工法、長さ、径、位置、くい頭処理、偏心による補強等の確認、ベース寸法、主筋の径、本数、位置、定着等の確認			
	基礎・くいの種類、配筋 (試験ぐいと本ぐいそれぞれについて、記載する。)	※ 令38 令73 令77の2 令78			
地中ばり	※ 令38 令73 令78 c) 地中ばりの断面寸法、主筋径、本数、位置、定着方法、継手(位置、長さ)、あばら筋の位置、径、間隔、形状、偏心による補強等の確認(参考：配筋指針「基礎」等)				
③ 柱	一般階主筋	※ 令77 a) 柱寸法、主筋の径、本数、配置(方向)、偏心による補強等の確認(参考：配筋指針「基礎ばり」等)			
		※ 令77 b) 2段筋の位置(間隔)の確認(参考：JASS5「鉄筋間隔・あきの最小寸法」等)			
	最上階主筋	※ 令73 c) 柱頭鉄筋の止まり高さ、主筋の出隅のフックの確認、最上階の主筋のはりに対する定着確認(参考：配筋指針「柱頭(最上階)の配筋」等)			
	最下階主筋	※ 令73 d) 最下階の主筋の基礎に対する定着確認(参考：配筋指針「柱脚(最下階)の配筋」等)			
	定着・継手	※ 令73 e) 主筋の継手位置及び長さの確認(参考：JASS5「柱筋の継手の位置及び定着」等)			
		※ 令73 f) 打増しの大きさによる配筋補強確認(参考：配筋指針「柱・梁の打ち増しコンクリート補強筋」等)			
	帯筋	※ 令77 g) 鉄筋径、間隔、本数(副帯筋共)及び形状の確認(参考：配筋指針「帯筋、副帯筋の一般形状」等)			
		※ 令77 h) 主筋絞り部、折曲げ部の帯筋補強の確認(参考：配筋指針「柱筋の絞り位置と絞り方」等)			
		※ 令77 i) 仕口部分の帯筋の配置確認(参考：配筋指針「帯筋の配筋間隔について」等)			
		※ 令77 j) 第1帯筋と柱頭の拘束帯筋の位置確認(参考：配筋指針「帯筋の配筋間隔について」等)			
		※ 令73 k) 帯筋のフック又は溶接の形状、結束の確認(参考：配筋指針「帯筋の一般形状」等)			
④ はり	はり主筋	※ 令78 a) はり断面寸法、はり主筋の径、本数及び位置の確認			
		※ 令78 b) 中吊り筋の間隔の確保、長さ確認(参考：JASS5「鉄筋の間隔・あきの最小寸法」及び配筋指針「はり端部・中央部の配筋」等)			
	定着・継手	※ 令73 令78 c) はり筋の定着長さ、位置確認(参考：JASS5「はり筋の定着」、RC規準「仕口への定着」等)			
		※ 令73 令78 d) 重ね継手の位置と長さ確認(参考：JASS5「梁筋の継手の位置」「鉄筋の重ね継手の長さ」等)			
		※ 令73 令78 e) はり筋出隅部の鉄筋端部のフック確認			
	打増し、貫通孔補強	※ 令3章8節 f) 打増しの補強方法が適切か、貫通孔の位置及び補強の確認(評定品の仕様確認)(参考：配筋指針「柱・梁の打増しコンクリート補強筋」「はりの貫通孔補強」等)			
	あばら筋	※ 令78 g) あばら筋の径、本数(副あばら筋共)とピッチの確認			
		※ 令73 h) あばら筋のフック形状、結束の確認(参考：配筋指針「あばら筋の形状」等)			
	片持ちばり	※ 令73 令78 i) 片持ちばり主筋の定着、あばら筋位置確認(参考：配筋指針「片持ちばりの配筋」等)			
	小ばり	※ 令73 j) 小ばり配筋の位置と定着確認(参考：配筋指針「小ばりの端部・中央部の配筋」「定着」等)			
⑤ スラブ筋	※ 令77の2 a) スラブ厚さの支持条件、寸法、鉄筋のピッチと径の確認				

⑥ 壁	スラブ	※	令 77 の 2	b) 主筋配置(短辺・長辺とベント配筋)の確認(参考:配筋指針「床スラブ」等)			
	定着、重ね継手	※	令 73 令 77 の 2	c) 定着と長さ(はり定着、隣接スラブ、段差スラブ定着)			
		※	令 73 令 77 の 2	d) 片持スラブの定着と上端筋位置確保(先端壁有無)(参考:配筋指針「片持スラブ」等)			
		※	令 73 令 77 の 2	e) 継手の位置と長さ(参考:配筋指針「床スラブ継手位置」等)			
	補強筋等			f) 床スラブの出入隅部の補強(参考:配筋指針「床スラブに関するその他の事項」等)			
		※	令 3 章 8 節	g) 開口部補強配筋確認(参考:RC 規準等)			
		※	令 3 章 8 節	h) 階段部配筋と補強筋確認(参考:配筋指針「階段」等)			
	壁筋	※	令 78 の 2	a) 壁厚、鉄筋の径、ピッチ、位置(土圧壁主筋・階段受け筋)の確認			
	定着・重ね継手	※	令 73 令 78 の 2	b) 定着確認(はり、柱、スラブ、壁定着)(参考:JASS5 及び配筋指針「壁筋の定着」等)			
		※	令 73 令 78 の 2	c) 重ね継手の位置と長さの確認(参考:JASS5 及び配筋指針「壁筋の継手の位置」等)			
補強筋等	※	令 78 の 2	d) 開口補強配筋確認(参考:配筋指針「壁開口補強」等)				
	※	令 3 章 8 節	e) スリット(完全、部分)の位置、形状及び配筋確認(参考:構造規定「スリットの配置及び詳細」等)				
⑦ その他	設備配管等			a) 設備配管(CD 管等)の配置確認			
	ガス圧接継手	※	令 73 告 1463	b) 圧接部の長さ及び膨らみの直径、圧接面のずれ、鉄筋中心軸の偏心量の確認			
		※	令 73	c) 圧接部の検査(引張試験、超音波探傷試験等)の検査箇所、検査率、合格率等の確認(参考:JASS5「ガス圧接継手」等)			
	特殊鉄筋継手			d) 認定、評定工法の仕様及び継手性能の確認			
		※	告 1463	e) 認定、評定品以外の場合のモルタル、グラウト材又はトルク確認			
	型枠及び既存打設部分状況確認	※	令 37 令 79	f) 型枠及び支柱の締付け、清掃状況確認(参考:JASS5「型枠の検査」等)			
		※	令 37 令 79	g) ジャンカ処理、型枠等木片撤去補修確認(参考:JASS5「不具合とその修理方法の例」等)			
		※	令 3 章 8 節	h) 基礎、柱、はり、床板、壁の躯体寸法の確認			
		※	令 76	i) 型枠支柱存置期間の確認			
		※	令 75 令 76	j) コンクリート打設後の養生(参考:JASS5「養生」等)			
※		令 72 令 74	k) コンクリートの調合及び圧縮強度の確認(参考:JASS5「養生」等)				
EXP. J の確認	※	令 36 の 4	l) 位置及び間隔の確認				
PCa の品質・強度確認等	※	令 3 章 6 節	m) コンクリートの調合及び圧縮強度の確認(参考:JASS5 等) n) 鉄筋の配筋確認 o) かぶり厚さ等の確認(告示 1372 号) p) 寸法精度の確認 q) 接合及び緊結の確認等 r) 製品検査結果(寸法精度、打ち込み欠陥等) s) 建方後の部材についての構造上支障のあるひび割れ等の欠陥の有無				
プレストレストコンクリートの定着及び材料等の確認	※	令 80 の 2 等	t) プレストレストコンクリートの定着方法の確認、圧着面のモルタル強度等(告示 1320 号) u) プレストレストコンクリートの緊張材料強度の確認(告示 1320 号) v) プレストレスト導入時の PC 強度の確認 w) プレストレスト導入張力の確認				

(注意) 確認方法

- A: 工事現場で目視確認したもの
 B: 工事現場で検査機器を用いて計測検査したもの
 C: 報告書により確認したもの
 D: 工場等で検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの
 E: 第三者機関等が検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの
 F: 工事監理者 (構造担当: 会社名 氏名) が直接確認したもの
 工事監理者及び工事施工者が A から F までの確認方法を参考に記入する。また、配筋工事等の重要項目については、工事監理組織図に記載されている構造担当者が直接確認したものは、「+F」(記入例 A+F、B+F、C+F) と記入する。

鉄骨工事施工結果報告書（延べ面積が500㎡を超える建築物）（中間・完了）

この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

年 月 日

殿
代表となる工事監理者 住所 _____ 電話 _____

会社名 _____ 級建築士事務所 登録第 _____ 号
氏名 _____ 級建築士 登録第 _____ 号

工事施工者 住所 _____ 電話 _____
会社名 _____ 建設業の許可 大臣・知事()第 _____ 号
氏名 _____

(法人にあつては、その事務所の所在地・名称・代表者氏名)

品質窓口責任者氏名 _____ 電話 _____

下記の鉄骨工事施工結果について、工事監理者より報告を受けました。

建築主 住所 _____ 電話 _____

会社名 _____
氏名 _____

(法人にあつては、その事務所の所在地・名称・代表者氏名)

記

(工場名： _____ 工場)

建築物	工事現場	名称	建築工事施工計画報告書		年 月 日 第 号	
		所在地	区 市			
	構造設計者		所属会社		電話	
	溶接技術監督員		所属会社		電話	
	品質管理責任者		所属会社		電話	
	構造種別	S造 RC造 SRC造 ()造		架構形式	ラーメン プレース ()	
	軒の高さ	_____ m	最大張り間	_____ m	延べ面積	_____ m ²
	確認済証交付機関					
	確認・計画通知、年月日及び番号			年 月 日	第 号	
	計画変更年月日及び番号			年 月 日	第 号(変更内容は別紙)	
		年 月 日	第 号(変更内容は別紙)			
鉄骨加工工場	名称					
	所在地	代表者氏名				
	認定番号種別					
	溶接の種類	a 工場製作()		b 工事現場製作()		
使用鋼材	鋼材種別 (最大板厚) (mm)	柱		梁		その他
		SS ()	SS ()	ダイアフラム		
		SM ()	SM ()	()		
		SN ()	SN ()	ベースプレート		()
		STKR ()	その他 () ()	()		()
その他 () ()						
監理者総合所見	受付欄					

工 場 溶 接			
検査関係者	a	鉄骨加工工場の溶接管理技術者	会社名 氏名 資格
	b	鉄骨加工工場の検査技術者	会社名 氏名 資格
	c	自主検査受託検査会社の検査員	会社名 氏名 資格
	d	受入検査受託検査機関の検査員	会社名 氏名 資格
			都登録 第 号
	e	工事施工者の検査担当者	会社名 氏名 資格
	f	工事監理者又は係員	会社名 氏名 資格
g	溶接技術監督員	会社名 氏名 資格	
溶接部の受入れ検査	検査項目	① 突合せ溶接部の外観検査(VT) <input type="checkbox"/> 表面欠陥検査 <input type="checkbox"/> 溶接部の寸法 <input type="checkbox"/> 外観形状 ② 突合わせ溶接部の超音波探傷検査 ③ すみ肉溶接部の外観検査	
	ロット構成	<input type="checkbox"/> 各節ごと <input type="checkbox"/> 製作部位(柱梁仕口接合部、柱接合部、その他)ごと <input type="checkbox"/> ロットの大きさ300個以下 <input type="checkbox"/> ロットの大きさ()個以下	
	抜き取り方法	<input type="checkbox"/> JASS6の方法 <input type="checkbox"/> ロットごと一律()% <input type="checkbox"/> ロットごと一律()個 <input type="checkbox"/> その他	
	指定事項	初回抜き取り率 VT()%以上 UT()%以上 ロット許容不良率 VT()%以下 UT()%以下	
	不良箇所	VT	不良内容
不良箇所	UT	不良内容	
不良箇所	VT	不良内容	UT
工場溶接部の入熱状況	温度管理結果	温度の考察	
	手順管理結果	手順の考察	
内質検査 ※	検査方法	<input type="checkbox"/> 硬さ試験 <input type="checkbox"/> 不可逆性の示温塗料塗布 <input type="checkbox"/> その他	
	ロット構成	<input type="checkbox"/> 各節ごと <input type="checkbox"/> 製作部位(柱梁仕口接合部、柱接合部、その他)ごと <input type="checkbox"/> ロットの大きさ300個以下 <input type="checkbox"/> ロットの大きさ()個以下	
	抜き取り方法	<input type="checkbox"/> ロットごと一律()% <input type="checkbox"/> ロットごと一律()個 <input type="checkbox"/> その他	
	結果の判定及び処置		

※ 高さが45mを超える建築物で溶接する鋼材の板厚が25mm以上の部分又は高さが45m以下の建築物で溶接する鋼材の板厚が40mmを超える部分において、鉄骨造等の工事に関する東京都取扱要綱により内質検査を必要とする場合に実施した受入検査

工 事 現 場 溶 接			
溶接部の受入れ検査	検査項目	① 突合せ溶接部の外観検査(VT) <input type="checkbox"/> 表面欠陥検査 <input type="checkbox"/> 溶接部の寸法 <input type="checkbox"/> 外観形状 ② 突合わせ溶接部の超音波探傷検査 ③ すみ肉溶接部の外観検査	
	ロット構成	<input type="checkbox"/> 総溶接線数 <input type="checkbox"/> 各節ごと <input type="checkbox"/> 各階ごと <input type="checkbox"/> 溶接技能者ごと <input type="checkbox"/> その他	
	抜き取り方法	<input type="checkbox"/> 全数 <input type="checkbox"/> その他	
	指定事項	初回抜き取り率 VT()%以上 UT()%以上 ロット許容不良率 VT()%以下 UT()%以下	
不良箇所の内容	VT		
	UT		
	不良箇所の処理内容	VT	UT
現場溶接部の入熱・パス間温度管理状況	温度管理結果の考察		
	手順管理結果の考察		
内質検査 ※	検査方法	<input type="checkbox"/> 硬さ試験 <input type="checkbox"/> 不可逆性の示温塗料塗布 <input type="checkbox"/> その他	
	ロット構成	<input type="checkbox"/> 総溶接線数 <input type="checkbox"/> 各節ごと <input type="checkbox"/> 各階ごと <input type="checkbox"/> 溶接技能者ごと <input type="checkbox"/> その他	
	抜き取り方法	<input type="checkbox"/> 全数 <input type="checkbox"/> その他	
	結果の判定及び処置		

※ 高さが45mを超える建築物で溶接する鋼材の板厚が25mm以上の部分又は高さが45m以下の建築物で溶接する鋼材の板厚が40mmを超える部分において、鉄骨造等の工事に関する東京都取扱要綱により内質検査を必要とする場合に実施した受入れ検査

鉄骨造確認項目報告(延べ面積が500㎡を超える建築物)									
確認項目	確認内容 欄中の※は法令規定事項である重要確認項目を示す。			溶接管理	第三者検査	工事施工者	工事監理者	備考	
				技術者	機関				
				注2	注2	注2	注2		
				確認方法	確認方法	確認方法	確認方法		
他注 工程 部分	基礎工事		RC造による						
	RC工事		RC造による						
I 報告 書 審 査 に よ る 確 認 事 項 (② ③ ④ ⑤ ⑥)	①加工工場の選定注3	※	規則1条の3	建築物の規模等認定の条件に見合った生産能力の有無、溶接部の受け入れ検査率の確認					
	②指定建築材料の品質規格確認	※	法37	a) 鋼材、高力ボルトセットの規格品質の確認					
		※	令67	b) 溶接材料の規格と鋼材の組み合わせの適否					
	③組立精度の確認		令67	開先角度、ルート面、ルートギャップ、食違い等組み立て時の鉄骨の精度					
	④製品検査1(鉄骨部材の寸法精度測定)			鉄骨部材の寸法精度(参考: JASS6付則6鉄骨精度検査基準)					
	⑤高力ボルト接合部の処理	※	令67	高力ボルト接合部の摩擦接合面の処理、ボルト孔の径ピッチ・縁短距離等					
⑥製品検査2(溶接接合部の検査)	※	令67	外観検査及び超音波探傷検査の結果確認(参考: JASS6付則6鉄骨精度検査基準UT基準)注7						
II 工 事 現 場 確 認 事 項	1 全 体	①加工工場の類別	※	規則1条の3	表示板又は認定書による加工工場の類別グレード確認				
		②指定建築材料の品質規格確認	※	法37	a) 鋼材等の品質規格証明書と現物の照合				
			※	令67	b) 溶接材料の規格と鋼材の組み合わせの適否				
		③部材の配置	※	令3章8節	柱、はり、ブレース、床版等の配置(確認図書との照合)				
		④部材の寸法・形状	※	令3章8節	柱、はり、ブレース、ダイヤフラム、床版等の寸法・形状(確認図書との照合)				
⑤建て方精度			架構の建て方精度(参考: JASS6付則6鉄骨精度検査基準)						
場 確 認 事 項	2 溶 接 接 合 部	①加工溶接部分の外観・形状・寸法注4	※	令92 96	a) 溶接継ぎ目の種類(突合せ溶接・すみ肉溶接)				
			※	令67	b) ダイアフラムとフランジのずれ				
			※	令67	c) 突合せ継手の食違い				
			※	令67	d) アンダーカット				
			※	令67	e) われ				
					f) その他の溶接部の外観・形状(参考: JASS6付則6鉄骨精度検査基準)				
	②工事現場溶接部分の組立精度注5			開先角度、ルート面、ルートギャップ、食違い等組み立て時の鉄骨の精度					
	③工事現場溶接部分の製品検査			外観検査及び超音波探傷検査結果(参考: JASS6付則6鉄骨精度検査基準、UT基準)注7					
	④工事現場溶接部の外観・形状	※	令3章8節	a) 工事現場溶接部の部位(確認図書との照合)					
		※	令92 96	b) 溶接継ぎ目の種類(突合せ溶接・すみ肉溶接)					
※		令67	c) ダイアフラムとフランジのずれ						
※		令67	d) 突合せ継手の食違い						
※		令67	e) アンダーカット						
			f) われ						
			g) その他の溶接部の外観形状(参考: JASS6付則6鉄骨精度検査基準)						

3 高力ボルト	①トルシア形高力ボルト	※	令92の2	a) 工事現場受け入れ検査(トルク係数値確認導入張力確認試験)実施状況及び保管状況の確認						
		※	令92の2	b) ボルトの本数、スプライス数、摩擦接合面の確認						
		※	令67	c) ボルトの径、孔径、中心距離、縁端距離の確認						
		※	令92の2	d) 締め付け状態の確認(肌すき・ピンテール破断・マーキングの状態の確認)						
注6	②高力六角ボルト(溶融亜鉛めっきボルト)	※	令92の2	a) 締め付け機器の調整、工事現場受け入れ検査(導入張力確認試験)の実施状況の確認						
		※	令92の2	b) ボルトの本数、スプライス数、摩擦接合面の確認						
		※	令67	c) ボルトの径、孔径、中心距離、縁端距離の確認						
		※	令92の2	d) 締め付け状態の確認(肌すきの有無・マーキングの状態の確認)						
4	ブレース接合部		令3章8節	ブレース接合部の形式・板厚・材質・補剛材等の確認						
5 柱の脚部の構造方法	共通		令66	柱脚接合工法と仕様の確認(確認図書との照合)						
		※	令66	a) アンカーボルトの材質・径・本数とナットの高さの確認						
	①露出形式	※	令66	b) アンカーボルトの均等な配置の確認						
		※	令66	c) 座金の使用、ナットの戻り止め措置の確認						
		※	令66	d) アンカーボルトの定着長さの確認						
		※	令66	e) 柱の最下端の断面積に対するアンカーボルト全断面積の割合の確認						
		※	令66	f) ベースプレートの厚さの確認						
		※	令66	g) アンカーボルトの径・孔径・縁端距離の確認						
	②根巻き形式				h) アンカーボルトの締め付け状況の確認					
		※	令66	a) 根巻き部分の高さの確認						
		※	令66	b) 根巻き部分の立ち上がり主筋の本数及びその頂部のかぎ状架構の確認						
		※	令66	c) 立ち上がり主筋の定着長さ(根巻き部分・基礎)の確認						
	③埋込み形式	※	令66	d) 根巻き部分の帯筋(令77②③)						
					e) スタッドボルトの径・本数・配置・溶接状況の確認					
※		令66	a) 柱の埋込長さの確認							
※		令66	b) 側柱・隅柱のU字型補強筋等による補強の確認							
6 床スラブ接合部	※	令3章8節	a) 床構造の形式(合成スラブ・)							
	※	令3章8節	b) シャーコネクター(頭付きスタッド等)の施工状況・検査結果の確認							
7	帳壁等の接合部			緊結金物の取り付け状況の確認						

(注意) 1 鉄筋コンクリート造検査確認項目による。

2 確認の方法

A: 工事現場で目視により確認したもの

B: 工事現場で検査機器を用いて計測検査したもの

C: 報告書により確認したもの

D: 工場等で検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの

E: 第三者機関等が検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの

F: 工事監理者 (構造担当: 会社名 氏名)が直接確認したもの

工事監理者及び工事施工者がAからFまでの確認方法を参考に記入する。また、配筋工事等の重要項目については、工事監理組織図に記載されている構造担当者が直接確認したものは、「+F」(記入例 A+F、B+F、C+F)と記入する。

3 鉄骨加工工場については、規則第1条の3に基づく大臣認定制度がある。図書省略をしない場合は、大臣認定工場の指定はない。

4 当該工事の構造耐力上主要な部分のうち、工場で溶接された部分

5 当該工事で構造耐力上主要な部分の接合に工事現場溶接を用いる場合のみ記入する。以下の③及び④も同様

6 当該工事で構造耐力上主要な部分の接合に用いる高力ボルト等を選択して記入する。

7 UT基準: 日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準」

(日本産業規格A列4番)

鉄筋コンクリート工事施工結果報告 (延べ面積が 500 m ² 以下の建築物)											
鉄筋継手の試験検査結果(検査ロットごと)報告											
ロット NO.	鉄筋継手部位	使用鉄筋の種別		破断位置(本数を記入)		降伏点 (N/mm ²)					検査ロットの 合 否
		継手の試験・検査方法		合 否(本数を記入)		引張強さ(N/mm ²)					
						1	2	3	4	5	
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母()継() 合()否 ()								合・否
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母()継() 合()否 ()								合・否
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母()継() 合()否 ()								合・否
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母()継() 合()否 ()								合・否
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母()継() 合()否 ()								合・否
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母()継() 合()否 ()								合・否
鉄筋継手施工業者											
鉄筋継手試験・検査機関名 注1											

コンクリートの試験検査結果(検査ロットごと)報告 注2																
ロット NO.	打設箇所	打設年月日		コンクリートの種類	塩化物量 (kg/m ³)	スランブ (cm)	コンクリート 温度(℃)	設計基準強度 (N/mm ²)		判定基準強度 (N/mm ²)		合 否				
		打込容積(m ³)	天候					気温	セメントの種類	測定器	空気量 (%)		供試体の 養生方法	品質基準強度 呼び強度 (調合管理強度)	材齢 (日)	圧縮強度 (N/mm ²)②
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階			普・軽1・軽2								合				
				N・H・()								否				
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階			普・軽1・軽2								合				
				N・H・()								否				
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階			普・軽1・軽2								合				
				N・H・()								否				
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階			普・軽1・軽2								合				
				N・H・()								否				
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階			普・軽1・軽2								合				
				N・H・()								否				
コンクリート試験機関名 注1																
生コン工場名																

試験・検査に伴う 業務を行った者 (要綱第2条第2項)	構造体コンクリート (工事施工者以外の場合は業者名を記入)					鉄筋の継手 (同左)					
	コンクリートの採取		エア・スランブ試験 供試体製作		試験機関への運搬		供試体の採取		試験機関への運搬		
	工事施工者		工事施工者		工事施工者		工事施工者		工事施工者		

(注意) 1 建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱第4条による試験機関及び第8条による検査機関をいう。

2 令第74条に基づく構造体コンクリートの検査

鉄筋コンクリート造確認項目報告								
確認項目	確認内容	工事 施工 者	工事 監理 者	確認項目	確認内容	工事 施工 者	工事 監理 者	
		注 確認 方法	注 確認 方法			注 確認 方法	注 確認 方法	
1 全体 令3章8節・法37・令79				6 スラブ 令3章8節・令73・令77の2				
共通	a) 鉄筋の乱れ、踏み荒らし、波打ち、たるみの無の確認			スラブ筋	a) スラブ厚の寸法、鉄筋のピッチと径の確認			
	b) 柱、梁、壁、スラブの位置の確認				b) 主筋方向(短辺・長辺とベント配筋)と支持条件の確認			
	c) かぶり厚さの確認			定着・重ね継手	a) 定着の長さど方法(梁定着、隣接スラブ、段差スラブの定着)の確認			
	d) PC部材、Pca部材及び37条大臣認定を取得している部材及び工法の使用方法及び施工方法を確認				b) 片持スラブの定着と上端筋位置の確保(先端壁有・無)			
	e) 鉄筋の材料、種類、品質、形状及び寸法(共通)の確認				c) 継手位置と長さの確認			
2 地盤 令38・令93				補強筋等	a) 床スラブの出入隅部の補強の確認			
支持地盤 (くいは試験ぐいと本ぐいそれぞれについて、記載する。)	a) 支持地盤の位置 (GL- m)、種類 (), 地耐力 (KN/m ²)等の確認				b) 開口部補強配筋の確認			
3 基礎 令38・令73・令77の2・令78					c) 階段部配筋と補強筋の確認			
種類 (くいは試験ぐいと本ぐいそれぞれについて、記載する。)	a) 基礎の種類 (), くい工法 (), 長さ、径、位置、くい頭の余盛り (PHCくい等のくい頭補強)、偏心による補強等の確認				d) スラブの受け筋の設置状況の確認			
ベース	a) 寸法、主筋の径・本数・位置の確認			7 壁 令3章8節・令73・令78の2				
地中ばり	a) 断面寸法、主筋の径・本数・位置・定着方法・継手の位置と長さ、あばら筋の位置・径・間隔・形状、開口位置・補強方法(評定品の仕様の確認)の確認			壁筋	a) 壁厚寸法、鉄筋の間隔・径・位置(土圧壁主筋・階段受け筋)の確認			
	4 柱 令73・令77				定着・重ね継手	a) 定着(梁、柱、スラブ、壁の定着)、長さ、方法の確認		
一般階主筋	a) 寸法、主筋の径・本数・配置方向を確認			b) 重ね継手の位置と長さの確認				
最下階主筋	a) 余長の長さとうきの確認			補強筋等	a) 開口補強の配筋の確認			
定着・継手	a) 各階止まり主筋の定着の確認 b) 主筋の継手位置の確認				b) スリットの位置・形状及び配筋の確認			
打増し・絞り	a) 打増し部の補強方法の確認 b) 絞りの位置及び補強の確認			8 その他 令3章8節・令37・令72・令74~76・令79				
帯筋	a) 径、間隔、本数(中子筋共)及び形状を確認(仕口部を含む。)			ガス圧接継手	設備配管等	a) 設備配管(CD管等)の配管の確認		
	b) 主筋絞り部、折曲げ部の帯筋補強の確認				a) 圧接技量資格者の確認			
	c) 第1帯筋と柱頭拘束帯筋の位置の確認				b) 継手位置のずらしの確認			
	d) 帯筋のフック形状、主筋との緊結の確認				c) 形状の確認			
5 はり 令3章8節・令73・令78				特殊鉄筋継手	d) 強度確認等の確認			
はり主筋	a) 寸法、径、本数及び位置の確認 b) 中吊り筋の間隔の確保、長さの確認				e) 引張り試験体の抜き取り数と位置の確認			
定着・継手	a) 主筋の定着位置、長さ及びカットオフの位置・長さの確認			型枠及び既存打設部分状況の確認	a) 認定、評定工法の確認			
	b) 重ね継手の位置と長さの確認				b) 継手位置の確認			
	c) 梁筋出隅部の末端フックの確認				a) 型枠及び支柱の締付け、清掃状況の確認			
打増し・開口補強	a) 打増しの補強方法の確認 b) 開口位置、補強方法(評定品の仕様の確認)の確認				b) 打込み欠陥部の有無及び補強の確認			
あばら筋	a) 本数(中子筋共)と間隔の確認				c) 基礎、柱、梁、床板、壁の体寸法の確認			
	b) 第1あばら筋の位置、小梁交差部のあばら筋を確認				d) 型枠支柱存置期間の確認			
	c) あばら筋のフック、主筋との緊結を確認			e) コンクリート打設後の養生の確認				
補強筋	a) ハンチ付き梁の吊り上筋部分のあばら筋補強の確認			f) コンクリートの調合及び圧縮強度の確認				
	b) 腹筋(ねじれ補強)の径、本数及び幅止めの間隔を確認							
片持梁	a) 主筋の定着、あばら筋の位置、上端筋の納まりの確認							
[提出書類] ・特殊工法施工報告書		[提示書類] (後日、返却します。)		・くいの施工結果報告書・コンクリート調査報告書・鋼材ミルシート等 ・各種試験結果報告書 ・写真(配筋施工状況、各試験体採取時、構造スリット施工状況)				

(注意) 確認方法 A: 工事現場で目視により確認したもの
 B: 工事現場で検査機器を用いて計測検査したもの
 C: 報告(工事監理者の場合は施工者による報告、検査機関の場合は工事監理者による報告)により確認したもの
 D: 工場等で検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの
 E: 第三者機関等が検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの
 F: 工事監理者 (構造担当: 会社名 氏名)が直接確認したもの
 工事監理者及び工事施工者がAからFまでの確認方法を参考に記入する。また、配筋工事等の重要項目については、工事監理組織図に記載されている構造担当者が直接確認したものについては、A+F、B+F、A+B+C+F等と記入する。

木工事施工結果報告（延べ面積が 500 m²以下の建築物）

使用材料等

直接基礎	べた, 布, 独立, ()		ク 構 リ 造 体 コ ン	基礎	普通	Fc : 18, 21, 24, ()	
杭基礎	場所打ち杭, 打ち込み杭, 埋め込み杭, ()			~			Fc : 18, 21, 24, ()
	()			~			Fc : 18, 21, 24, ()
	RC, PHC (), 鋼管, ()		鉄 筋	S.R. 235, 295			
	認定工法 ()			S.D. 295 (A, B), 345, 390, ()			
年 月 日 第 号		重ね継手 ・ ガス圧接 ・ 特殊継手					
木材	軸組工法	土台	檜・ひば・()	木 材	枠組壁工法	土台	甲種枠組材 (特級・1級・2級)・
		柱	檜・松・杉・榿・集成材 ()			床根太	甲種枠組材 (特級・1級・2級)・
		横架材	檜・松・杉・榿・集成材 ()			端根太	甲種枠組材 (特級・1級・2級)・
		耐力壁	檜・松・杉・榿・構造用合板 ()			側根太	甲種枠組材 (特級・1級・2級)・
		床	構造用合板 ()・()			床・梁	構造用集成材 (1級・2級)・
		母屋	檜・松・杉・榿・集成材 ()			まぐさ	甲種枠組材 (特級・1級・2級)・
		その他	檜・松・杉・榿・集成材 ()			天井	構造用集成材 ()・
	木造大断面	柱 (間柱を除く。)	構造用集成材 (1級・2級)			根太	構造用集成材 ()・
		横架材 (小梁を除く。)	構造用大断面集成材 (1級・2級)			垂木・棟木	
		その他 ()	化粧張り構造用集成材 (1級・2級)			屋根梁	
						たて枠	甲種枠組材 (特級・1級・2級・3級)
						上枠	甲種枠組材 (コンストラクション・スタンダード)
						頭つなぎ	構造用集成材 (1級・2級)
						大枠	
		その他 ()	()				

接合金物の種類と規格	ホールダウン金物	() kN用, () マーク	羽子板金物	
	プレート金物		火打ち金物	
	アンカーボルト		その他	

使用釘

コンクリートの試験検査結果 注1

ロットNO	使用部位	設計基準強度 Fc (N/mm ²)	品質基準強度 Fq (N/mm ²)	塩化物合否	供試体の養生方法	判定基準強度 (N/mm ²)	4週強度試験結果 (N/mm ²)	合否判定
	杭・地中梁・耐圧盤	18, 21, 24,	21, 24, 27,		現場水中養生 標準養生	21, 24, 27,		合 否
	杭・地中梁・耐圧盤	18, 21, 24,	21, 24, 27,		現場水中養生 標準養生	21, 24, 27,		合 否
	杭・地中梁・耐圧盤	18, 21, 24,	21, 24, 27,		現場水中養生 標準養生	21, 24, 27,		合 否
	杭・地中梁・耐圧盤	18, 21, 24,	21, 24, 27,		現場水中養生 標準養生	21, 24, 27,		合 否

コンクリート試験機関名 注2
生コン工場名

[提出書類] [提示書類] (後日、返却します。)
 ・特殊工法施工報告書
 ・くい施工結果報告書・各種試験結果報告書・鋼材ミルシート
 ・施工写真 (基礎配筋, 試験体採取, アンカーボルト等)
 ・鉄筋圧接を実施した場合は、第三者試験機関による鉄筋引張試験・非破壊検査報告書

(注意) 1 令74条に基づく構造体コンクリートの検査
 2 建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱第4条による試験機関をいう。
 3 混構造の場合は、必要に応じて様式9及び様式11を提出すること。
 4 CLT工法の場合は、主要木材を別に報告すること。

木造確認項目報告

確認項目	確認内容		工事施工者	工事監理者
			確認方法 注	確認方法 注
1 全体・共通事項	法 37	a) 鉄筋の材質 (JIS 規格) の確認		
	法 37	b) コンクリートの材質 (JIS 規格) の確認		
	令 3 章 8 節	c) 柱、横架材、筋かい、土台等の位置の確認		
	令 3 章 8 節	d) 木材の樹種、等級、形状、寸法の確認		
	令 3 章 8 節	e) 金物の種類、規格、品質、形状、寸法及び緊結方法、緊結の確認		
	令 3 章 8 節	f) 釘の種類の確認		
	令 47, 12 告 1460	g) 継手及び仕口の接合方法の確認		
2 基礎・地盤・土台 (くいは試験ぐいと本ぐいそれぞれについて、記載する。)	令 38, 12 告 1347	a) 地耐力の確認 (支持層 層・地盤改良 kN/㎡)		
	令 38, 12 告 1347	b) 杭の工法、品質、位置、径、長さ、本数、杭頭処理、偏心による補強及び支持力の確認 (偏心 mm 以下・支持力 kN/P 以上)		
	令 38, 12 告 1347	c) 基礎及び地中梁の種類、位置、形状、寸法の確認 (基礎高さ mm)		
	令 38, 12 告 1347	d) 鉄筋の径、本数、間隔、形状、定着、継手及び配置の確認		
	令 38, 12 告 1347	e) 基礎及び地中梁の貫通箇所の位置及び補強の確認		
	令 38, 12 告 1347	f) 型枠寸法及びかぶり厚さの確認		
	令 38, 12 告 1347	g) 打設後の養生 (コンクリートの養生及び型枠、支柱の取り外し等) を適切に行ったことの確認		
	令 38, 12 告 1347	h) 地盤の不同沈下等 (基礎に有害なひび割れが無いこと等) の確認		
	令 38, 12 告 1347	i) 床下換気孔 (又はこれに代わるもの) の確認		
	令 42	j) アンカーボルトの材質、形状、寸法及び配置、定着、緊結状況の確認		
	3 在来工法・木造大断面	令 3 章 8 節	a) 構造耐力上必要な部分に使用する軸組材 (柱、はり、筋交い、その他の耐力壁等)、床材及び屋根地材の種類、品質、形状、寸法及び位置の確認	
令 3 章 8 節		b) 柱 (通し柱、管柱)、間柱、梁、桁、土台その他の横架材、筋かい及びその他の耐力壁 (構造用合板) の形状、寸法、配置の確認		
令 3 章 8 節		c) 柱 (通し柱、管柱) と梁との緊結及び緊結方法 (Z 金物及びC 金物等の工法による) の確認		
令 3 章 8 節		d) 筋かいの緊結及び緊結方法 (Z 金物及びC 金物等の工法による) の確認		
令 3 章 8 節		e) 柱 (通し柱、管柱) と土台、その他の横架材との緊結及び緊結方法 (Z 金物及びC 金物等の工法による) の確認		
令 3 章 8 節		f) 構造用合板の緊結の確認 (釘間隔 cm 以下)		
令 3 章 8 節		g) ホールダウン金物の品質、形状、寸法、位置、緊結及び緊結方法の確認		
令 3 章 8 節		h) 床根太、床梁、胴差との取り合い及び床下地の取り付けの確認		
令 3 章 8 節		i) 小屋組の形状、寸法、緊結及び緊結方法の確認		
令 22		j) 床高さ (又は床下防湿) の確認		
令 43		k) 柱の欠込み部及び通し柱に代わる管柱の補強の確認		
令 44		l) 横架材に構造耐力上支障のある欠込みの無いことの確認		
令 45		m) 筋かい等の欠込み部の補強の確認		
令 47		n) 釘打ちの方法の確認		
令 46		o) 火打ち材の設置状況、剛床の確認		
令 46		p) 小屋組の火打ち材、振れ止めの設置状況等の確認		
4 枠組壁工法		平成 13 年告示第 1540 号, 第 1541 号	a) 構造耐力上必要な部分に使用する枠組材の品質、寸法及び配置の確認	
	b) 構造耐力上必要な部分に使用する床材、壁材及び屋根下地材の品質及び寸法の確認			
	c) 構造耐力上必要な部分に使用する釘及びネジの品質及び寸法の確認			
	d) 土台、床根太、端根太及び側根太の品質、寸法及び配置の確認			
	e) 床の各部材相互及び床の枠組と土台又は頭つなぎとの緊結の確認			
	f) 壁の各部材相互及び壁と床、頭つなぎ又はまぐさ受けとの緊結の確認			
	g) 小屋組各部材相互及び小屋組の部材と頭つなぎ又は屋根下地との緊結の確認			
5 混構造		a) 木造部分と木造以外 () 部分の間の取り付けの確認 (取付方法:)		
6 防腐防蟻措置	令 49	a) 防腐及び防蟻措置の確認 (地盤から mm)		

(注意) 確認方法 A: 工事現場で目視により確認したもの B: 工事現場で計測機器、検査機器を用いて確認したもの C: 報告により確認したもの
 D: 工場等で検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの
 E: 第三者機関等が検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの
 F: 工事監理者 (構造担当: 会社名) 氏名 が直接確認したもの

工事監理者及び工事施工者がAからFまでの確認方法を参考に記入する。また、配筋工事等の重要項目については、表紙の工事監理組織欄に構造担当者が記載されている場合で構造担当者が直接確認したものについては、A+F、B+F、A+B+C+F等と記入する。

工事現場溶接工事報告（現場溶接を実施した場合）				
溶接部の検査	溶接管理技術者	所属	氏名	資格
	検査機関名	CIW・都登録番号		
	検査員	氏名	資格	
	溶接部検査率	確認時指定 VT()% UT()%	実施 VT()% UT()%	
工事現場溶接の部位 注1				

溶接部検査結果	VT検査項目	不合格箇所	「有」の場合、不合格箇所の部位と対処方法
	食い違い	有・無	
	ずれ	有・無	
	アンダーカット	有・無	
	われ	有・無	
	余盛	有・無	
		有・無	
		有・無	
	UT検査項目	不合格箇所	「有」の場合、不合格箇所の部位と対処方法
	ブローホール	有・無	
	有・無		
	有・無		

入熱・パス間温度管理状況	温度管理結果の考察	
	手順管理結果の考察	

工事現場溶接検査項目報告

確認項目	確認内容	工事施工者	工事監理者	備考	
		確認方法 注2	確認方法 注2		
溶接接合部	1 工事現場溶接部分の組立精度	令 67 告示 1464	a) 開先角度、ルート面、ルートギャップ、食い等組み立て時の鉄骨の精度		
	2 工事現場溶接部分の製品検査	令 67 告示 1464	a) 外観検査及び超音波探傷検査結果（参考：JASS6 付則 6 鉄骨精度検査基準、UT 基準）		
	3 工事現場溶接部分の外観・形状	令 3 章 8 節 令 92・96	a) 工事現場溶接部の部位（確認図書との照合） b) 溶接継ぎ目の種類（突合せ溶接・すみ肉溶接）		

(注意) 1 [コラム柱 - コラム柱]、[ダイアフラム - H鋼梁フランジ] 等と記すこと。
 2 確認方法
 A: 工事現場で目視により確認したもの
 B: 工事現場で検査機器を用いて計測検査したもの
 C: 報告書により確認したもの
 D: 工場等で検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの
 E: 第三者機関等が検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの
 F: 工事監理者（構造担当：会社名 氏名）が直接確認したもの
 工事監理者及び工事施工者が A から F までの確認方法を参考に記入する。また、配筋工事等の重要項目については、表紙の工事監理組織欄に構造担当者が記載されている場合で構造担当者が直接確認したものについては、A+F、B+F、A+B+C+F 等と記入する。

鉄骨造確認項目報告

確認項目	確認内容		工事 施工 者	工事 監理 者	備 考
			注 確認 方法	注 確認 方法	
I 報告書審査による 確認事項	加工工場の選定	規則1の3	a) 建築物の規模等認定の条件に見合った生産能力の有無、溶接部の受け入れ検査率の確認		
	指定建築材料の 品質規格確認	法37	a) 鋼材、高力ボルトセットの規格品質の確認		
		令67	b) 溶接材料の規格と鋼材の組み合わせの適否		
	組立精度確認	令67	a) 開先角度、ルート面、ルートギャップ、食違い等組み立て時の鉄骨の精度		
	寸法精度測定		a) 鉄骨部材の寸法精度 (参考: JASS6 付則6 鉄骨精度検査基準)		
	高力ボルト接合部の処理	令67	a) 高力ボルト接合部の摩擦接合面の処理、ボルト孔の径ピッチ・縁短距離等		
溶接接合部の検査	告1464	a) 外観検査及び超音波探傷検査の結果確認(令67条、参考: 日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準」)			
II 工事 現場 確認 事項	1 全 体	加工工場の類別	規則1の3	a) 表示板又は認定書による加工工場の類別グレード確認	
		指定建築材料の 品質規格確認	法37	a) 鋼材等の品質規格証明書と現物の照合	
			令67	b) 溶接材料の規格と鋼材の組み合わせの適否	
		部材の配置	令3章8節	a) 柱、はり、ブレース、床版等の配置 (確認図書との照合)	
		部材の寸法・形状	令3章8節	a) 柱、はり、ブレース、ダイアフラム、床版等の寸法・形状 (確認図書との照合)	
	建て方精度		a) 架構の建て方精度 (参考: JASS6 付則6 鉄骨精度検査基準)		
	2 高力ボルト (トルシア形高力ボルト、 高力六角ボルト、溶融亜鉛 めっきボルト)		令92の2	a) 工事現場受け入れ検査(トルク係数値確認導入張力確認試験)実施状況及び保管状況の確認	
			令92の2	b) ボルトの径・本数、スプライス数・厚さ、摩擦接合面の確認	
			令68	c) ボルトの孔径、中心距離、縁端距離の確認	
			令92の2	d) 締付け状態の確認(肌すき・ピンテール破断・マーキングの状態の確認)	
	3 ブレース		令3章8節	ブレース主材の断面・材質、接合部の形式・板厚・材質等の確認	
	4 柱の 脚部 の 構造 方法	共 通	令66	a) 柱脚接合法と仕様の確認(確認図書との照合)	
			令66	a) アンカーボルトの材質・径・本数とナットの高さの確認	
		露 出 形 式	令66	b) アンカーボルトの均等な配置の確認	
			令66	c) 座金の使用、ナットの戻り止め措置の確認	
			令66	d) アンカーボルトの定着長さの確認	
			令66	e) ベースプレート形状の確認(厚さ、穴径、縁端距離)	
			令66	f) アンカーボルトの締め付け状況の確認	
			令66	a) 根巻き部分の高さの確認	
		根 巻 き 形 式	令66	b) 根巻き部分の立ち上がり主筋の本数及びその頂部のかぎ加工の確認	
			令66	c) 立ち上がり主筋の定着長さ(根巻き部分・基礎)の確認	
			令66	d) 根巻き部分の帯筋(令77②③)	
			令66	e) スタッドボルトの径・本数・配置・溶接状況の確認	
		埋 込 み 形 式	令66	a) 鉄骨柱の埋込長さの確認	
令66	b) 側柱・隅柱のU字型補強筋等による補強の確認				
令66	c) 埋込部分の鉄骨のかぶり厚さの確認				
5 床 ス ラ ブ 接 合 部	令3章8節	a) 床構造の形式(合成スラブ・)			
		b) 床構造の厚さ・配筋			
	令3章8節	c) シャーコネクター(頭付きスタッド等)の施工状況・検査結果の確認			
6 帳 壁 等		令3章8節	a) 緊結金物の取り付け状況の確認		

提出書類 特殊工法施工報告書、鉄骨製作要領書

提示書類 (後日返却するもの) くい施工結果報告書、調査報告書、鋼材のミルシート等、工場及び現場溶接部受入検査報告書、各種試験・検査結果報告書、施工写真(配筋・試験体採取・柱脚・合成床・HTB締め付け)

(注意) 確認方法

- A: 工事現場で目視により確認したもの
 - B: 工事現場で検査機器を用いて計測検査したもの
 - C: 報告書により確認したもの
 - D: 工場等で検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの
 - E: 第三者機関等が検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの
 - F: 工事監理者 (構造担当: 会社名 氏名)が直接確認したもの
- 工事監理者及び工事施工者がAからFまでの確認方法を参考に記入する。また、配筋工事等の重要項目については、表紙の工事監理組織欄に構造担当者が記載されている場合で構造担当者が直接確認したものについては、A+F、B+F、A+B+C+F等と記入する。

附 則

この告示は、令和3年6月21日から施行する。